

(公社) 栃木県サッカー協会
サ ャ ー 記 録 用 紙

確認者	運営責任者	マッチコミッショナー	主 審

大会名	栃木県高等学校総合体育大会サッカー大会 兼 第62回関東高校サッカー大会県予選会				第 5 日 準決勝		2019年5月11日 13:00 kickoff		競技 時間	80分 延長20分	観 衆	400人	記 録 者	廻谷貴宏 内田才也	
	会場 真岡市総合運動公園陸上競技場				天 候	晴・弱風 26.7℃・20.1%		状 態	天然芝 (良)	審判員	主審 鈴木 翔 氏		副審 上野 智貴 氏	副審 島野 雄介 氏	第 4 審 田代 浩之 氏
【チーム名】 國學院大學栃木高等学校 (白、赤、白)					1	0	前 半	0	2	【チーム名】 真岡高等学校 (赤、青、赤)					
監督:中田勇樹						1	後 半	1							
						0	延長前半	0							
						0	延長後半	1							
					背番号		P K戦の経過		背番号		Kick off				
					○×				○×		監督:川上栄二				
							</								

= Match Report =

令和元年総体兼第62回 関東高等学校サッカー大会県予選会

準決勝

2019 年 5 月 11 日 (土)

13:00 kick off 会場(真岡市総合運動公園陸上競技場)

国学院栃木

vs

真岡

0

0 - 0
1 - 1
0 - 0
0 - 0

0

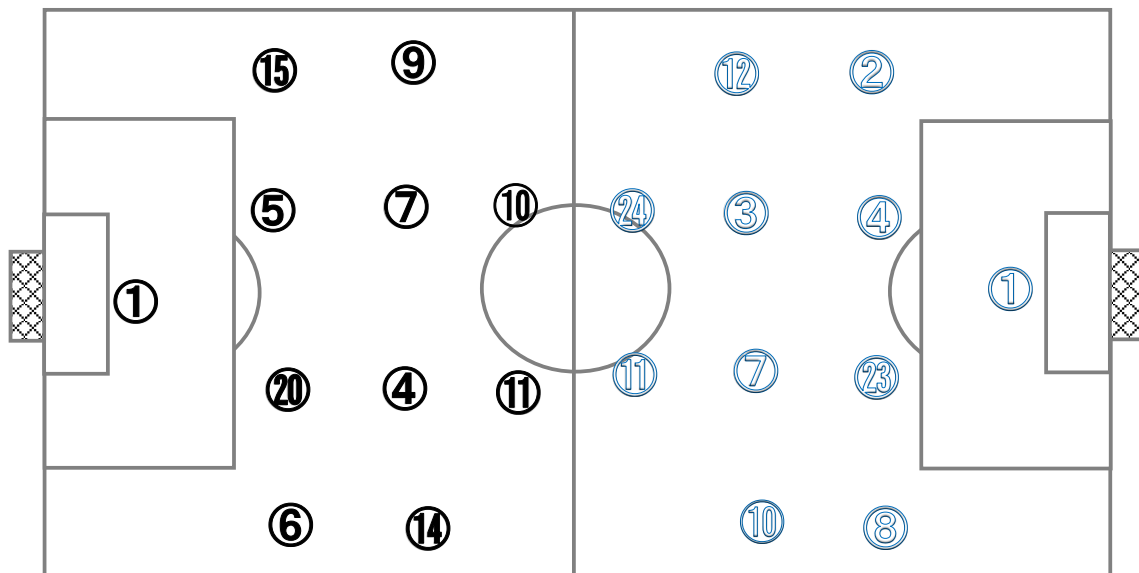
PK

国学院栃木

基本システム 1 - 4 - 4 - 2

真岡

基本システム 1 - 4 - 4 - 2



【Match Report】

準決勝第2試合は気温が上昇し、汗ばむ陽気のなかでキックオフした。両チーム共に県1部リーグで戦うチーム同士の対戦となった。互いに1-4-4-2のシステムでスタート。立ち上がりは真岡MF③相澤雄やMF⑦真下を中心に中盤の競り合いでボールを拾い、優位にゲームを進めた。国学院栃木はGK①関口とDF陣を中心に体を張ってゴールを守り失点を許さない。堅い守備からカウンターを狙う国学院栃木は少しずつ攻撃の形を作っていく。真岡はボールを支配して動かしながら崩そうと試みるが、効果的にペナルティエリア内まで侵入できない展開が続く。両サイドからのクロスで何度もチャンスをつくるものの、ゴールを割ることが出来ず真岡にとっては我慢の時間帯が続いた。前半はそのまま互いにノーゴールで0-0のまま終了した。

後半の立ち上がりも真岡が攻勢に出る。開始早々にスルーパスから決定機を作るが、国学院栃木のDFがゴールライン上でかき出して得点を許さない。一方の国学院栃木は守備時にもFW⑩岩井と⑪菊地が前線に残ってクリアボールを拾い、そこを起点に鋭いカウンターを繰り出すという展開を狙う。後半11分に真岡はMF⑪高田に代えてMF⑬松浦を投入し流れを引き寄せようとする。さらに真岡はMF⑨渡辺をFW⑭笠原に代えて投入する。オフェンスの選手を投入して攻撃を活性化した真岡がさらに攻勢を強め、CKから何度もゴール前にボールを送り続けるが、国学院栃木のGKとDF陣が集中を切らさずに粘り強く耐え続ける。後半30分に真岡MF⑫川内がドリブルで右サイドから切り崩し、折り返したボールにMF⑩相澤敬がゴール前で冷静に流し込み、待望の先制点を奪う。得点を奪うしかない国学院栃木は前線に人数をかけて同点ゴールを狙う。後半40分にゴール前でFKを獲得した国学院栃木はMF⑦工藤が蹴ったボールが直接ゴールに吸い込まれ終了間際に同点に追いつき、延長戦に突入した。

延長戦に入り互いに体力的に厳しいなか、どちらも球際で気持ちのこもった奪い合いを見せる。延長前半は互いに無得点のまま終わる。延長後半6分真岡MF⑩相澤敬が右足で放ったシュートが決まり再び真岡が勝ち越しに成功する。このまま逃げ切った真岡が決勝へと駒を進め、関東大会への切符を手にした。敗れた国学院栃木も最後までフェアに戦うグッドチームであった。

記載責任者 所属(栃木県立烏山高等学校) 氏名(福田 康平)